

ときがわ「森林インストラクターの森」活動報告

期 日：2022年5月8日(日)

参加者：7名(池田、近江、藤井、星野、横山、芳野、森永)

報告者：森永

10連休が存在した今年のGW。その大トリである5月8日は、暦の上での夏が始まる「立夏」となっており、ときがわの森に設けられたウッドデッキも、いつの間にか新緑からギアを上げ深みを増した緑陰にしっかり蔽われていました。

山仕事日和に集合したメンバーは計7名。今回も下刈りを行



シモバシラの株

う程のヤブの繁茂には至っていないため、シカネット補修、樹名板手入れ、間伐材による野外卓作成(宝登山設置予定)、過密化した再生林の除伐と、役割をそれぞれ分担して作業に就きました。

昨冬きれいな氷の造形を見せてくれたシモバシラは、今年もしっかり新たな株の伸長を確認でき、斜面ではヤブデマリの白花も今が盛りの状況です。

私が参加したのは、前回に続き過密化した常緑樹主体の再生林の除伐で、同じく前回経験者にして伐採の手練れ近江さんと、広葉樹の伐採は初めてながら腰のマイ鋸が凜々しい藤井さんのオッサントリオで挑みました。挑んだとはいえ、相手は傾斜35°の急斜面、樹種は木が堅いと書くカシ類、過密化によるかかり木と、林冠部で暴れているフジの存在等、そこまで歓迎してくれなくてもという条件に本日もオッサン大苦戦でした。

この林分は、上層のアラカシ、中間層にヤブツバキが高い被度で生育しており、長いこと間引きを行っていないため、日照が得られなくなった林床では植生がほぼ衰退しています。そんな状況に手ノコで挑んでいるため、無謀といえそうですが、できればこの林分に光を入れ、コナラのような雑木林の樹種構成に誘導し、将来的には手ノコで萌芽更新させていく直径・樹高サイズの明るい広葉樹林へと移行させたいと思っています。

手に負えない大径な個体は、そのうちチェーンソー組にお願いするとして、当面は可能な限りの密度調整と林内照度の向上を意図しながら、伐ることのスキルを身に着ける機会としても、今後継続できればと思っています。



緑が濃くなったウッドデッキ



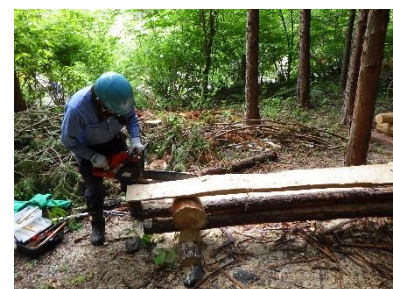
除伐作業：近江・藤井



ネット補修：池田・星野



樹名板：芳野



野外卓作成：横山